

①

ポンオキキリムイ ヤイエユカラ(タノタフレフレ)
小オキキリムイが自ら歌った謡 「この砂赤い赤い」

タノタフレフレ
tan ota hure hure

【この砂赤い赤い】

シネアントタ ペットウラシ
シノタシクス パイエアサワ
sineantota petturasi sinot=as kusu
paye=as awa,

ある日に流れをさかのぼって
遊びに出かけたら、

ポンニツネカムイ チコエカリ
pon nitnekamuy ci=koekari.

悪魔の子に出会った。

ネイタクス ポンニツネカムイ
シリカウエナ ナンカウエナ
ney ta kusu pon nitnekamuy sirka wen ya
nanka wen ya,

いつでも悪魔の子は様子が美
しい顔が美しい。

クンネコソソテ ウトメチウ
kunne kosonte utomeciw

黒い衣を着けて

ネシコボンク ネシコボナイ ウコアニ
nesko pon ku nesko pon ay ukoani,

胡桃の小弓に胡桃の小矢を持
っていて

ウンヌカラアワ サンチャオッタ
ミナカネ エネイタキ
un=nukar awa, sanca or ta mina kane
ene itak hi:――

私を見ると、ニコニコしてい
うことには、

「ポンオキキリムイ シノタシロ！
“pon okikirmuy sinot=as ro!

「小オキキリムイ、遊ぼう。」

ケケヘタク チェブスツウイエ
チキクシネナ」
keke hetak cep sut tuye ci=ki kus ne na.”

さあこれから、魚の根を絶や
して見せよう。」

③

チシトウラノ モムマパイエ
カムイチェブトラ ピリカワッカ
エヤイテムカ
cis turano mom wa paye kamuycep utar
pirka wakka eyaytemka,

泣きながら流れて行った鮭ど
もは清い水に元気を回復し

ウェンシノッハウ ウエンミナハウ
ペプニタラ
wen sinot haw wen mina haw pepunitara

大笑いをして遊びさわいで

ヘメシパシリ チョポパッキ
hemespa siri copopatki.

パチャパチャ川を上って行っ
た。

シリキチキ ポンニツネカムイ
コロウエンプリ エナントウイカ
エパラセレ
sirki ciki pon nitnekamuy kor wen puri
enantuyka eparsere:

すると、悪魔の子は、持前の
癩癩を顔に表して、

「ソノノヘタブエイキチキ
ユクスツウイエ チキクシネナ」
“sonno hetap e=iki ciki yuk sut tuye
ci=ki kus ne na.”

「本当にお前そんな事をする
なら、鹿の根を絶やして見せよ
う。」

イタクカネ
itak kane,

と云って、

ネシコボンク ネシコボナイ
ウウエウヌ カントコトロ
チョツチャアイケ
nesko pon ku nesko pon ay uweunu,
kanto kotor cotca ayke

胡桃の小弓に胡桃の小矢を番
え大空を射ると、

ケナシソカワ ネシコレラ スペネレラ
チサナサンケ
kenas so ka wa nesko rera supne rera
cisanasanke,

山の木原から胡桃の風、つむじ
風が吹いて来て

②

イタクカネ ネシコボンク
ネシコボナイ ウウエウヌ ペテトクン
アイエアクアワ
itak kane nesko pon ku nesko pon ay
uweunu petetok un ay eak awa,

と言っ、胡桃の小弓に胡桃の
小矢を番え水源の方へ矢を射
放すと、

ペテトコワ ネシコワッカ
ヌブキワッカ チサナサンケ
petetoko wa nesko wakka nupki wakka
cisanasanke,

水源から胡桃の水、濁った水が
流れ出し、

カムイチェブトラ ヘメシパコ
ネシコワッカ コウエンマ
kamuycep utar hemespa ko nesko wakka
kowen wa

鮭どもが上って来ると胡桃の
水が厭なので

チシトウラノ オロヘトポ
モムマパイエ
cis turano orhetopo mom wa paye,

泣きながら引き返して流れて
行く。

ポンニツネカムイ ネワアンペ
サンチャオッタ ミナカネアン
pon nitnekamuy newaanpe sanca or ta
mina kane an.

悪魔の子はそれをニコニコし
ている。

シリキチキ ネワアンペ チルシカクス
sirki ciki newaanpe ci=ruska kusu,

私はそれを見て腹が立ったの
で

チコロシロカニボンク シロカニボナイ
チウウエウヌ ペテトクン アカシアワ
ci=kor sirokani pon ku sirokani pon ay
ci=uweunu, petetok un ak=as awa,

私の持っていた、銀の小弓に
銀の小矢を番え水源へ矢を射
はなすと

ペテトクワ シロカニワッカ
ピリカワッカ チサナサンケ
petetok wa sirokani wakka pirka wakka
cisanasanke,

水源から銀の水、清い水が流れ
だ出し、

④

ケナシソカワ アブカトパ
シンナイカネ モマンベトパ
シンナイカネ レラプンパ
kenas so ka wa apka topa sinnay kane
momanpe topa sinnay kane rerapunpa,

山の木原から、牡鹿の群は別に
牡鹿の群はまた別に、風に吹き
上げられ

トオプカントオルン リキブシリカン
マクナタラ
toop kanto or un rikip siri kan maknatara,

ずーっと天空へきれいになら
んで上って行く。

ポンニツネカムイ
サンチャオッタエミナカネアン
pon nitnekamuy sanca or ta emina kane an.

悪魔の子はニコニコしている。

シリキチキ ウエンキンラネ
ウンコヘタリ
sirki ciki wen kinra ne un=kohetari

それを見た私はかっとなに
さわったので

シロカニボンク シロカニボナイ
チウウエウヌ
sirokani pon ku sirokani pon ay
ci=uweunu

銀の小弓に銀の小矢を番えて、

ユクトパオシ アカシアワ
yuk topa osi ak=as awa

鹿の群のあとへ矢を射放すと、

カントオロワ シロカニレラ
ピリカレラ チラナランケ
kanto oro wa sirokani rera pirka rera
ciranaranke,

天上から、銀の風、清い風が吹
き降り、

レラエトコ アブカトパ シンナイカネ
モマンベトパ シンナイカネ
ケナシソカ チオラプテ
rera etoko apka topa sinnay kane
momanpe topa sinnay kane kenas so ka
ciorapte.

牡鹿の群は別に、牡鹿の群はま
た別に、山の木原の上へ吹き下
された。

⑤

シリキアワ ポンニツネカムイ
コロウェンプリ エナントウイカ
エパラセレ
siriki awa pon nitnekamuy kor wen puri
enantuyka eparsere,

「アチカラタソンノヘタブ
エイキチキ ウキロロスカラ
アキクシネナ」
“acikarata sonno hetap e=iki ciki
ukirornukar a=ki kus ne na.”

イタクカネ ホカナシミプ ヤイコアレ
itak kane hokanasimip yaykoare.

チオカイナツカ エアラカパラベ
チヤイコノイエ
ciokay nakka earkaparpe ci=yaykonoye,

チコテッテレケ ウンコテッテレケ
ci=kotetterke un=kotetterke.

オロワノ ウポクナレアシ
ウカンナレアシ ウコテレケアシコ
orowano upoknare=as ukannare=as
ukoterke=as ko,

イネアプクス ポンニツネカムイ
オキラシヌワ フマシナンコラ
ineapkusu pon nitnekamuy okirasnu wa
humas nankor ya.

キプネコロカ フナクバケタ
イクケウキロロ モントウムキロロ
チヤイコサンケ
ki p ne korka hunakpake ta ikkew kiror
montum kiror ci=yaykosanke,

すると、^{あくま}悪^こ魔の子は持前の
^{かんしやく}癩癩^{かお}を顔^{あらわ}に現し、

「^{なまい}生意^き気な、^{ほんとう}本当^{まえ}にお前^{まへ}そんな
こと^{こと}事をするなら、^{ちからくら}力^{ちから}競^{くら}べをやる
う。」

と云いながら^{うわぎ}上衣^ぬを脱いだ。

わたし^{うすぎぬいちまい}私も薄衣一枚^{一枚}になって

^く組み付^ついた。彼^{かれ}も私^{わたし}に組み付^つ
いた。

それからは^{たがい}互^{した}に下^{した}にしたり上^{うへ}
にしあったり^{すもう}相撲^{まう}をとったが、

^{たい}大^{あくま}へんに悪^こ魔の子^{ちから}が力^{ちから}のある
こと^{こと}事には^{おどろ}驚^{おどろ}いた。

けれども、とうとう、ある^{じかん}時間^{じかん}
に、私^{わたし}は腰^{こし}の力^{ちから}、からだの力^{ちから}
をみんな^だ出して、

そこにここに^{もの}物を^た食べている。

わたし^{わたし}私^{わたし}はそれ^みを見て^{あんしん}安心^しをし、私^{わたし}
の家^{いえ}へ^{かえ}帰^{かえ}って^き来た。

と、^{ちい}小さい^{ちい}オキキリムイ^{ちい}が
^{ものがた}物語^{ものがた}った。

《表記について》

カタカナ表記は、原文表記で全角スペースで区切られている単位をひとまとまりとして表記した。ただし、インデントがされている最後の行のみ、半角スペースをそのままカタカナ表記に反映させた。

ローマ字表記は、基本的に語ごとに区切り、以下の点を原文の表記から変更した。

sh は s、ch は c とした。

音節末の i は y、u は w とした。

人称接辞は=で区切った。

発音上、変化していると考えられる語は元の語形を記した。

誤植と思われる部分は正しいと推測される形を記した。

全て小文字とした。

日本語は原文の表記を用い、ふりがなを追加した。

⑥

ボンニツネカムイ シカンタブクルカ
チエシタイキ
pon nitnekamuy sikantapkurka
ci=esitayki,

キムニイワ イワクルカシ
チエキクフミ リムナタラ
kimun iwa iwa kurkasi ci=ekik humi
rimnatara.

チオアンライケ ポクナモシリ
チコオテレケ
ci=oanrayke poknamosir ci=kooterke,

フムオカケ チャッコサヌ
hum okake cakkosanu.

タブオロワ ベテソロ ホシッパアシコ
tap orowa pet esoro hosippa=as ko

ペトツタ カムイチエプタラ
ミナハウエ シノッハウエ
ペプニタラコロ
pet or ta kamuycep utar mina hawe sinot
hawe pepunitara kor

ヘメシパシリ チョポパツキ
hemespa siri copopatki,

ケナシソカタ アブカウタラ
モマンペウタラ
kenas so ka ta apka utar momanpe utar

ウェンミナハウ
ウェンシノッハウロンロラッキ
wen mina haw wen sinot haw ronroratki,

^{あくま}悪^こ魔の子^こを肩^{かた}の上^{うへ}まで引^ひっ担^{かつ}
ぎ、

^{やま}山^{いわ}の岩^{いわ}の上^{うへ}へ彼^{かれ}を打^うちつ^うけた
^{おと}音^{おと}が^{ひび}がんと響^{ひび}いた。

^{ころ}殺^{ころ}してしま^{ころ}って地^{じごく}獄^{じごく}へ踏^ふみ落^{おと}
した

あとはしんと^{しず}静^{かえ}まり返^{かえ}った。

それが^す済^すんで、わたし^{わたし}なが^{なが}にそ^そ
って帰^{かえ}って来^くると、

^{かわ}川^{なか}の中^{なか}では^{きけ}鮭^{きけ}どもが笑^{わら}う声^{こゑ}遊^{あそ}
ぶ声^{こゑ}が^{かま}かまびすしく

のぼって^く来^くるのが^くパチャパチ
ヤきこえる。

^{やま}山^{きはら}の木^{きはら}原^{きはら}では、^{おじか}牡^{おじか}鹿^めども、^め牡^め鹿^{じか}
どもが

^{わら}笑^{わら}う声^{こゑ}遊^{あそ}ぶ声^{こゑ}がそこら^{こゑ}一^{いっ}ぱい
になって